

# コープリハビリテーション病院・老健あかねだより

No.135 2024年11月号

倉敷医療生活協同組合  
コープリハビリテーション病院  
〒712-8057 倉敷市水島東千鳥町1-60  
TEL 086-444-3212  
老人保健施設 老健あかね  
TEL 086-446-6541

## 脳卒中連携を考える会2024報告

～満足度のカギは医療・介護縦横の連携～

コープリハビリテーション病院 院長 鍛本真一郎

コープリハビリテーション病院は、川崎医科大学附属病院と倉敷中央病院との連携病院です。



コープリハビリテーション病院  
院長 鍛本真一郎  
(筆者)



座長  
森本 徹 先生  
(しげい病院副院長)



菱川朋人 先生  
(川崎医科大学脳神経外科教授)



会共同代表  
八木田佳樹 先生  
(川崎医科大学脳卒中医学教授)

### 【はじめに】

9月に表題の年次研究会がありました。中心は川崎医科大学附属病院脳卒中科(以下、川大脳卒中科)と同脳神経外科(以下川大脳外)、それに倉敷地域の回復期・維持期(生活期)リハビリテーションを担う医療機関が参加し互いの連携を深めるのが目的です。

### 【脳卒中診療の現状と地域連携】

まず川大脳卒中科の八木田教授が講演。脳卒中は寝たきり原因1位。それに国が呼応し「脳卒中・循環器病対策基本法」を制定。急性期の受け皿となる川大は一次脳卒中センターコア施設の立場から治療成績を紹介。コア施設の次の受け皿は回復期リハビリテーション病棟です。この使命はリハビリでの在宅復帰や急性期の薬物治療を継続し次の維持期(生活期)に再発予防をつなげることです。

### 【患者満足度のカギは医療・介護の縦横の連携】

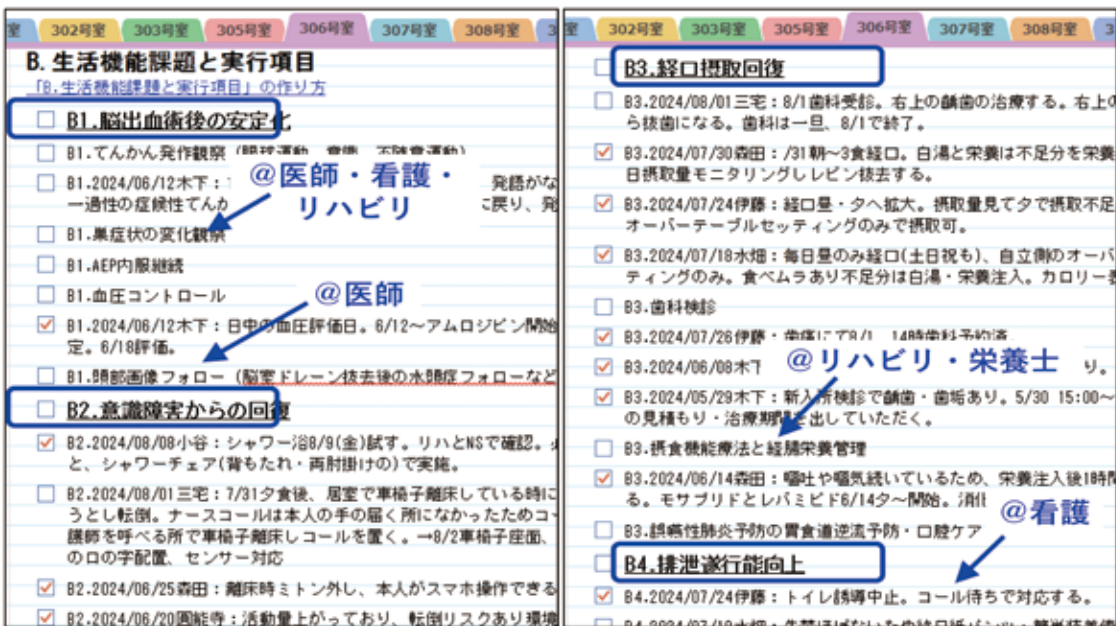
とに多職種の計画をまとめるツールを紹介しました。それに対し八木田教授がまとめてくれました。高齢者医療は色々な問題(病気を抱えている。それを一つ一つつぶしていくのではなく抱えたまま支えて折り合いを付けて家をめざす。非常に芯の通ったメッセージかと思う。我々も、そういうところを念頭に置いて急性期から患者さんをつなげていきたいと思えます。

ら助言をいただきました。脳卒中は後遺症などの精神的・身体的つらさ、人生そのものの不安などからくる全人的苦痛の緩和も求められます。この緩和には縦横の連携が不可欠です。1つは医療・介護・福祉の継続的な横の連携、もう1つが急性期・回復期・維持期(生活期)の縦の連携です。そうやって患者・家族の満足度を上げることがこの会のゴールと再確認できました。

### 【急性期の終わりが見えたら回復期に回復やえたら速やかに回復】

八木田教授の講演を受け私が倉敷医療生協内の水島協同病院との連携を紹介。そして回復期病棟で患者さんご

私の講演のあと同じ地域で回復期・維持期(生活期)を支える医療機関からご意見をいただきました。その中で終末期の意思決定について急性期から情報がない場合はどうするか? という問題提起がありました。それに対し座長の川大脳外科の菱川教授が「脳卒中における緩和と療養の生命倫理に関するプロジェクト」のメンバーのお立場か



回復期病棟での全職種共通の計画実行ツール。患者は1人なのに医師、看護師、リハビリなどが別々の計画を立てる非効率を防ぐために全職種がすべきことを同一画面で共有しました。

入院や入所に際して、部屋代はいただいません。

老健あかねは、通所リハビリ・訪問リハビリ・短時間通所リハビリとの連携をしています。



全国からの参加者へ活動を報告する筆者 (左奥)

私は第7分科会にて演題1題を発表しました。発表内容は「患者の家から地域が見える〜回復期リハ病棟の自宅訪問の実績〜」とし、入院7日以内の早期に自宅へ訪問して退院後の困り事や入院中の課題解決に役立てる仕組みを紹介しました。



当院を退院された患者さんの情報を交換する筆者(左)と橋本義肢の石原さん(右)

9月18日に川崎医科大学附属病院の言語聴覚士部門主任宮崎彰子先生と橋本義肢製作(株)の石原洋さんが当院に事業の説明に来訪されました。

### ベッドの上でも社会と繋がりを、自由度が拡大できる意思伝達装置

補装具装用訓練等支援事業へ当院も参加

9月18日に川崎医科大学附属病院の言語聴覚士部門主任宮崎彰子先生と橋本義肢製作(株)の石原洋さんが当院に事業の説明に来訪されました。岡山県内にはこの事業を活用し、自宅のベッド上で生活しながらパソコンを操作し、カフェで働いたり、会計処理をしたり、実際に働かれています。当院を退院された方もこの装置を活用し、パソコンを操作し3D画像を作製されたとの情報も得る事が出来ました。たとえ、手足が動かず、

により自らの言葉で発することが困難となるが居られます。そのような方でも意思伝達装置を活用して目の動きでパソコンを操作し、会話が可能となつて意思疎通が出来ます。岡山県内にはこの事業を活用し、自宅のベッド上で生活しながらパソコンを操作し、カフェで働いたり、会計処理をしたり、実際に働かれています。当院を退院された方もこの装置を活用し、パソコンを操作し3D画像を作製されたとの情報も得る事が出来ました。たとえ、手足が動かず、



川崎医科大学附属病院から事業説明に来られた宮崎ST(右から3番目)

の生活を支える思いは一緒だと実感される来訪となりました。



韓国と日本との事業機能や体制など様々な質問へ回答



韓国グリーン病院のイム・サンヒョク院長(後列左から4番目)をはじめたとして日本に来訪された職員の方々



○お問い合わせ先  
倉敷医療生活協同組合  
コープリハビリテーション病院  
老人保健施設 老健あかね  
TEL 086-444-3212(代表)  
受付時間 平日 9:00~16:30  
土曜日 9:00~12:00  
(日祝・年末年始を除く)

〒712-8057  
倉敷市水島東千鳥町1-60  
ホームページ: <http://coopreha.jp/>  
メールアドレス: [info@coopreha.jp](mailto:info@coopreha.jp)  
広報委員会  
発行責任者 笹館 勝人

診療表		コープリハビリテーション病院 外来受付時間 8:30~12:00 [086-444-3212]		老健あかね [086-446-6541]		
診療時間	月	火	水	木	金	土
外来	午前 9:00~12:30	14:30~15:00	午後 9:00~16:50	9:30~11:00	9:00~16:00	
装具外来		○(予約制)	○(予約制)	○(予約制)		
歯科		○	○	○	○	○
短時間通所リハビリ						
短期集中健康アップ教室						
訪問リハビリ						
通所リハビリ						

医療福祉相談・連携室	
相談受付時間	平日 9:00~12:00 13:30~16:30 土曜日 9:00~12:00 日・祝日 休み

(コープリハビリテーション病院 リハビリテーション科 科長 佐藤雅昭)



コープリハビリテーション病院 事務課 メディカルサポーター 鷲谷美智子



コープリハビリテーション病院 5階病棟 介護士 小川恵子

新入職員 紹介

## 国内外から関心が持たれる在宅支援の仕組みづくりとその活動報告

### 全国活動交流集会発表と韓国グリーン病院来訪

9月29・30日に岡山シンフォニーホールやホテルグランビアなど複数ヶ所を会場とした全国活動交流集会が開催されました。

全国から1700人に及ぶ参加者や発表者が集まり、医療や介護などを通じた地域活動を報告しました。

質問も複数頂き、後日に京都の方から今後の事業活動のモデルに紹介するため資料が頂きたいとの連絡があり、長年の実践に自信の持てる反応でした。

参加者の中には韓国のグリーン病院から医師や社会福祉士など多職種の方が来日され